

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-152	13-101
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol use disorders and drinking among survivors of the 9/11 attacks on the World Trade Center in New York City. ニューヨーク世界貿易センター9.11 テロ事件の生存者におけるアルコール使用障害と飲酒		
<b>執筆者</b>		
North CS, Adinoff B, Pollio DE, Kinge S, Downs DL, Pfefferbaum B.		
<b>掲載誌</b>		
Compr Psychiatry. 2013 Oct;54(7):962-9. doi: 10.1016/j.comppsy.2013.03.027.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
ニューヨーク 9.11 テロ事件、アルコール使用障害、飲酒		23642636
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
アルコールと災害の関連性について、ある研究では災害と関連した飲酒について調査し、他の研究では災害に関連したアルコール使用障害（以下 AUD）を調査している。特定の災害による心的外傷曝露に関連した飲酒と AUD について同時に調査した研究はこれまでにない。本研究の目的は、9.11 テロ事件による心的外傷と AUD および飲酒の関連性について調査することである。		
<b>方法：</b>		
2011 年の世界貿易センター9.11 テロ事件で被災したニューヨーク市の機関の職員で協力が得られた 379 名について、9.11 テロ事件の被災に関連した飲酒と AUD について災害約 3 年後に評価した(3 つの部局の 176 名は WTC に入居しており 4 つの部局の 203 名は WTC 以外に入居、参加率は 17%)。被災の詳細や向精神薬・その他薬物利用歴に関する構造化面接を行った。飲酒量などは 9.11 以前、以後、現在(3 年後)の 3 時点について質問した。		
<b>結果：</b>		
調査協力者の約 1/4(102 名)が WTC にてテロにあった。102 名のうち 35%が PTSD と診断された。9.11 以前の非飲酒者 29%、以降は 29%で優位な差はなかった。9.11 以降の飲酒量の増加は少なく、3 年後には 9.11 以前の量に戻った。これは性別、婚姻状況、WTC 勤務者か否か、被災後に PTSD あるいはうつや AUD と診断されたか否かなどに関わらず同じ傾向であった。被災後の飲酒量は AUD のもので増加していた。		
<b>結論：</b>		
飲酒量の増加は少なく、新たに AUD になったあるいは再燃したケースは少数であった。このことから、被災後の飲酒は多くの人にとっては臨床的には無視できる程度であることが示唆された。災害後は、すでにアルコールや他の精神疾患を抱えた大量飲酒リスク者の同定に焦点を当てるべきであろう。		